

区自治協議会提案事業 事業評価書

秋葉区自治協議会(広報部会)

区分	内容
テーマ・事業名	コミュニティFMを活用した秋葉区自治協議会PR事業 【事業費予算 828千円】
事業目的・概要	秋葉区ならではの取り組みとして、秋葉区のコミュニティFMを活用し、自治協議会の活動や自治協議会かわら版「あきはくはつものがたり」のPRを行う。
事業の実施実績 (実施回数,参加者数など)	<p>■FM版「あきはくはつものがたり」 毎月第2水曜日の12時00分から30分番組の放送 (再放送は同じ週の土曜日9時から)</p> <p>■スポットCMの放送 8~3月:合計放送本数250本</p> <p>■かわら版「あきはくはつものがたり」を活用したPR2号/年(運営事業費) 第27号:R3.9.5発行、第29号:R4.3.20発行 各号約22,000部発行し、新聞折込および個別配送のほか、公共施設等に配置</p>
事業の評価 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;"> 地域課題の区自治協議会提案事業 事業評価抽出方法 や企画立案の評価 事業の公益性・実効性・効率性の評価など </div>	<p>■コミュニティFMの活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治協の活動紹介としては有効だと思う反面、決まった時間にスイッチを入れるという制約の縛りは強いと思った。再放送はあるにしても。 ・自治協で起こっていること、各部会が実施している内容等が秋葉区内の幅広い方々の耳に届くことは区民の興味・関心を高めることに繋がった。 ・秋葉区で起こっている様々なことを、秋葉区内で収めるのはもったいないので、区外や市外まで届くような広報もあっても良いかなと思った。 ・コミュニティFMを使つての自治協議会活動の情報発信は今後も必要だと思うが、どれだけの人が聞いてもらっているのか把握できないことが課題だと思う。 ・日常生活に密着し、身近な情報の発信が求められる「コミュニティFM」の活用は、とかく地域の方々に分かりにくく、見えにくいとされる人づくり、まちづくり等の事業推進のための広報媒体として、大きな効果が期待出来る。 ・ラジオ版「あきはくはつものがたり」の紹介を、年間を通じて自治協議会委員が所属部会メンバーとして担い、番組担当パーソナリティーとの対話を通してそれぞれの部会が提案し進めている事業について発信していくことは、情報の受け手である区民の関心を引き寄せ、又、発信者である委員にとっても、事業の現況や効果等を再点検出来る等、有効な取り組みである。 ・電波聴取エリアが狭い事や、放送の曜日、放送時間等制約が多いが、聴取

	<p>率は勿論のこと、年齢層等聴取者の属性もはっきりしない中で、提供番組に対するアンケート調査の実施や視聴者からの意見投稿を求め、番組構成に反映させる事も必要である。</p> <p>■かわら版「あきはくはつものがたり」の発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形に残る、読み返しができるというのは強力。写真やマンガで、文章だけではスルーされることを防いでいると思う。 ・4コマ漫画を取り入れ、文字だけでなく読者の興味を唆る紙面で工夫されていてよかった。 ・近い将来、各プロジェクト等を紙面ではなく映像媒体で広報するのは有りかと思う。文字や写真だけでは伝えられない魅力や伝えやすさがあると思うので、検討していけたらと思う。 ・コロナ禍の中、予定通り「あきはくはつものがたり」が発行できてよかった。 ・年3回の発行のうち1回は区だよりの一面を使うことで区民に確実に読んでもらえていると思う。 ・様々な情報のデジタル化が進められているが、高齢者にとっては情報機器を通さず即視が可能な紙媒体である広報紙の有意性は高い。 ・コミュニティ FM 活用との併用によるダブル効果は大きい。継続していくべきと考える。 ・発行回数が少ないのでタイミングの良い記事掲載が難しい。 ・近年の新聞離れから、広報紙受領不可世帯の減少対策の検討が必要である。 ・新潟薬科大学の取り組みを紹介し、地域の方々に少しでも大学を身近に感じていただく工夫を施した。 <p>■全体を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目から入る情報は強いと思う。ポスターもその一つだが、現在はやはり映像かと思う。今年度の4コママンガは、一貫してもち麦にした。1回より2回とダメ押しで産業推進を図れば良いと思う。 ・秋葉区の魅力発信をするためには、現在は映像での発信が一番効果的であると思う。 ・自治協議会の活動の情報発信は SNS などの方法があるが、紙媒体での「あきはくはつものがたり」は高齢の世代にとって自治協議会を身近に感じてもらえていると思う。 ・より良い広報活動を進めるため、広報部会研修を提案する。研修は、放送（アナウンスを中心とした）部門、広報（紙面作成を中心とした）部門の専門家による講義、実技等で構成する。
--	--

	<p>・できるだけホットな話題を迅速に地域の方々に届けることを意識しながら、コミュニティFMやかかわら版を通じた表現や演出を行ったことは評価できる。しかし、自治協が中心となって実施する様々なイベント、取り組みがまだまだ浸透していないことや一部の方々にしか知られていないことを実感することがある。FM での出演回数や放送時間の確保、新潟日報をはじめとするマスコミを上手に活用することも必要なのではと感じた。</p>
--	--